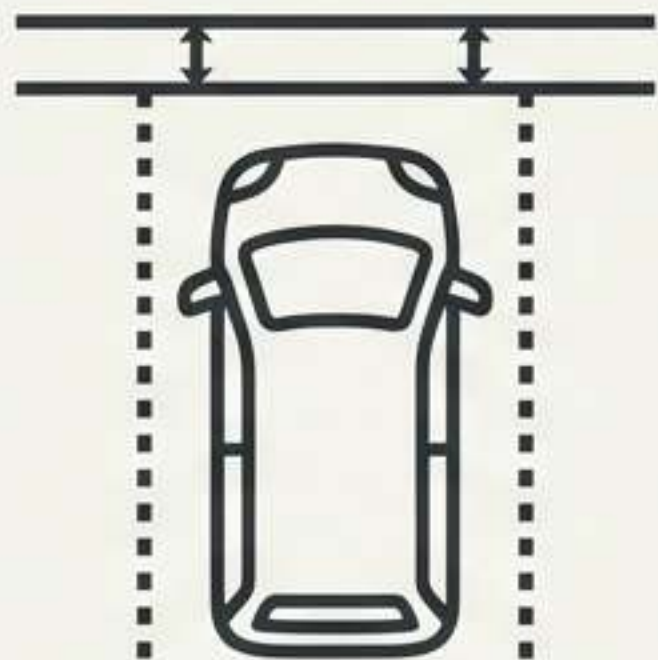


あなたの「動く秘密基地」を見つける

DIYキャンピングカーベース車両 完全比較ガイド



なぜ、日本のバンライフは「選択」から始まるのか？



駐車場の制約

日本の標準的な駐車枠は「長さ5.0m×幅2.5m」。多くの立体駐車場には高さ2.1mの制限も存在する。



道路の制約

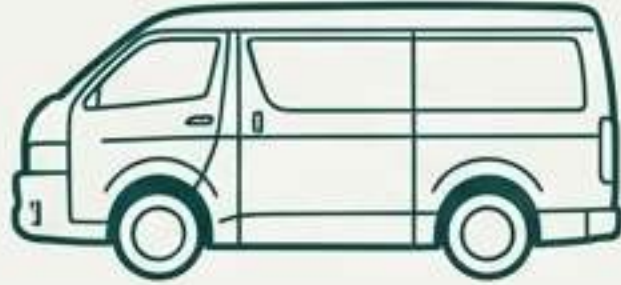
都市部の裏道から地方の林道（酷道）まで。全幅1.7m以下の「4ナンバーサイズ」が事実上の標準となる。



究極のトレードオフ

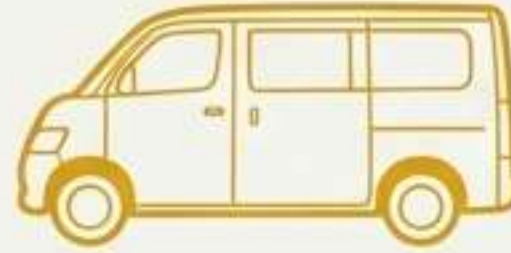
この制約の中で「居住性」と「機動性」の最適バランスを見つけることが、ベース車選び最大の争点となる。

運命の分かれ道：3つの車両クラス



1BOXバン

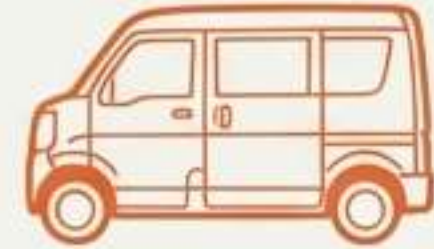
ハイエース / キャラバン
積載量と資産価値の王者



ミドルクラスバン

タウンエース

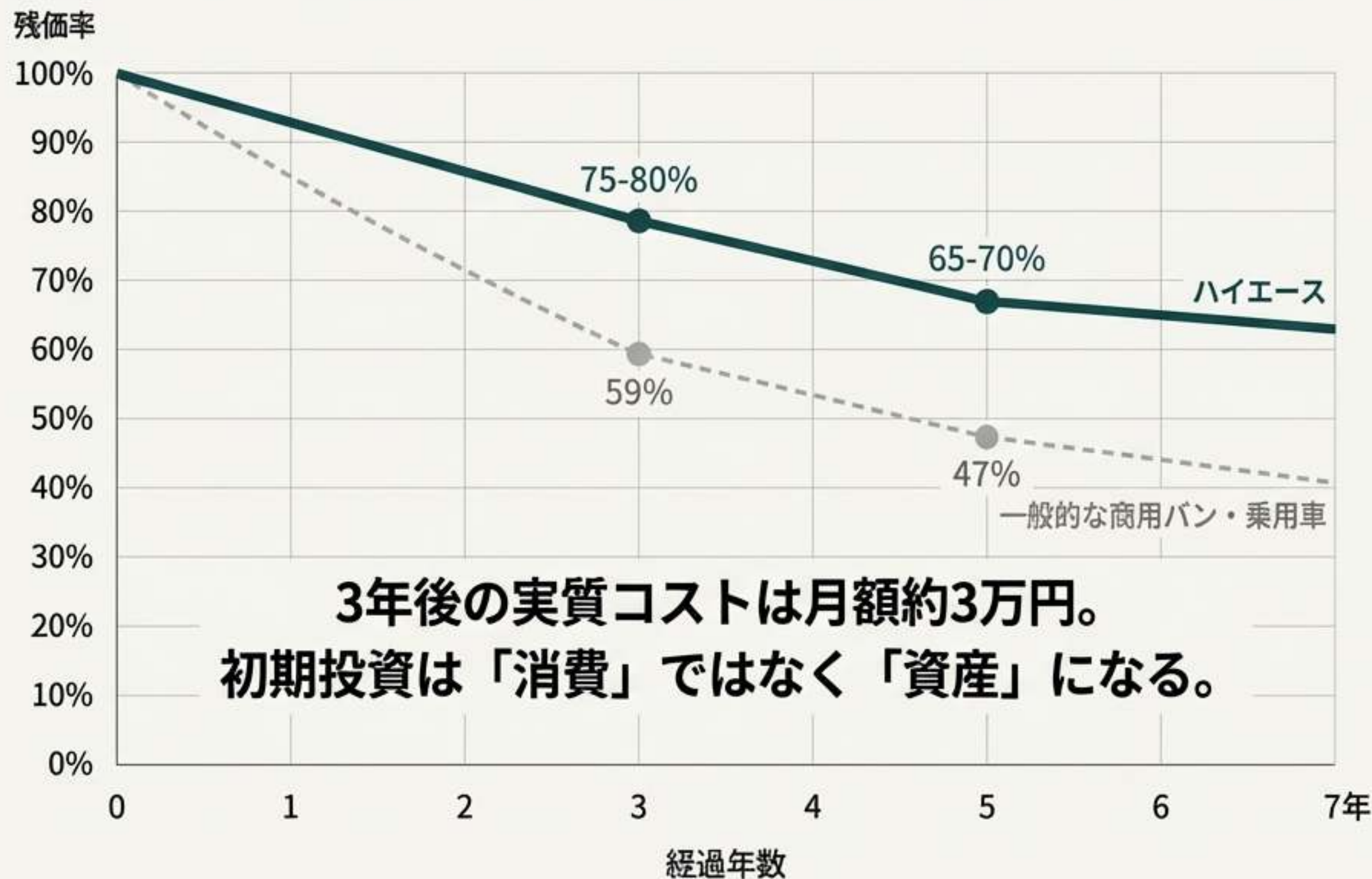
機動性と居住性の最適解



軽バン

エブリイ / アトレー
維持費と自由度の探求者

資産としてのハイエース：揺るぎなき王者の経済合理性



分析的洞察

480万円の新車ディーゼル車を購入し3年後に売却した場合、想定売却価格は約360～380万円。車両償却コストは100～120万円に留まる。

この「資産保全能力」こそが、ハイエースが選ばれる最大の理由である。

実用性と先進性のキャラバン：「乗り潰す」なら最高の選択肢



インテリジェント アラウンドビューモニター

狭いキャンプサイトでの駐車や林道での転回など、DIYキャンパーが直面する場面で接触事故のリスクを劇的に低減。



7速AT（7M-ATx）

多段化により高速巡航時の静粛性と燃費が向上。長距離移動の疲労を軽減する。



中古市場での価格優位性

ハイエースに比べ価格下落率が高いため、同程度の年式・走行距離でも割安。初期投資を大幅に抑えることが可能。

DIY視点で見る直接対決：ハイエース vs キャラバン

比較項目	トヨタ・ハイエース (200系)	日産・キャラバン (E26)	DIYビルダーへの示唆
DIYパーツの豊富さ	★★★★★ (圧倒的)	★★★★☆ (充実)	専用ベッドキット等の種類が桁違い。 初心者はハイエースが無難。
荷室高	1,335mm	1,350mm (+15mm)	わずか15mmの差が、天井の断熱材施工後の室内高に余裕を生む。
乗り心地 (ノーマル)	硬め、跳ねる傾向	ややしなやか	キャラバンはドライバーの疲労軽減に注力したシート設計。
4WD性能	フルタイム4WD	パートタイム4WD (切替式)	雪道での安心感はハイエース。燃費ではパートタイム式が有利な場面も。

結論

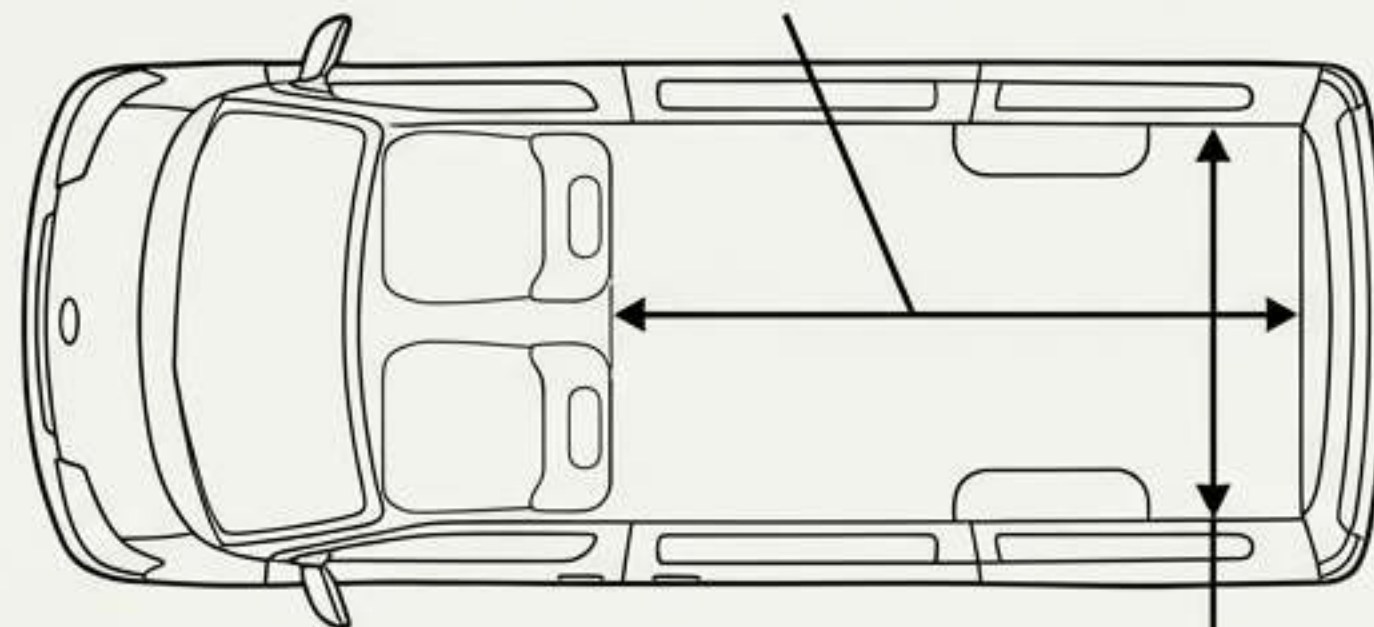
「将来の売却を考えるならハイエース」「長く乗り続け、安全装備と初期費用を重視するならキャラバン」という選択が、データから導き出される合理的な答えだ。

「ちょうどいい」という最適解：トヨタ・タウンエース



荷室長 2,045mm

大人でも余裕で就寝可能。
足元にポータブル電源を置くスペースも確保。



荷室幅 1,495mm

ハイエース比-50mm。セミダブルベッド
を置いてもサイドに収納を設置できる。



全長 4,065mm

コンパクトカー感覚の運転のしやすさと、
ハイエースに迫る居住空間を両立した、まさに「ジャストサイズ」の価値。

最小の車体で、最大の自由を：軽キャンパーという小宇宙



スズキ・エブリイ (DA17V)

軽キャンパーの代名詞

- 圧倒的なアフターパーツ量。DIY情報が豊富で、車中泊特化グレード「JOINターボ」も人気。



ダイハツ・アトレー (S700系)

長距離ツアラーの新星

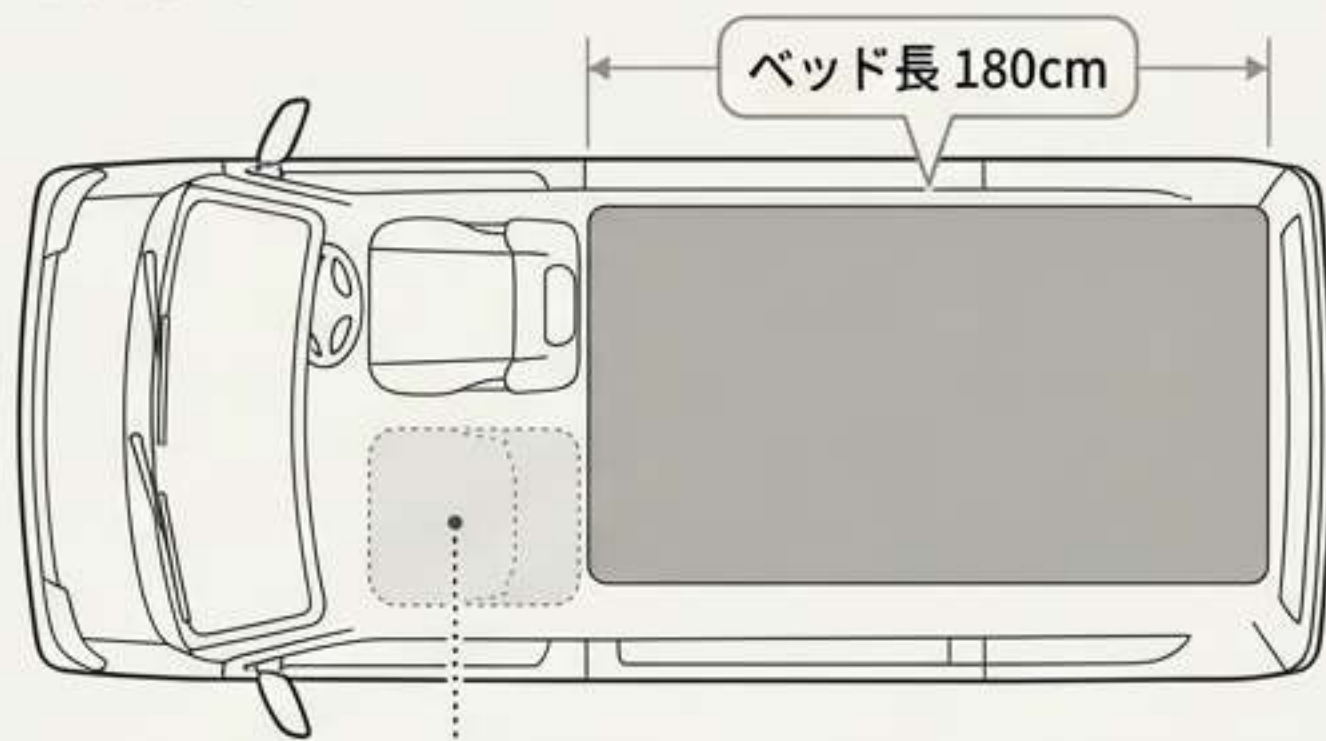
- CVTとACC（全車速追従）を搭載し、高速移動の快適性を劇的に向上させた革新的モデル。

税金、高速料金、フェリー代。あらゆる維持費が劇的に安いのが最大の武器。

居住性を決める「10cm」の攻防：軽バンDIYの真髄



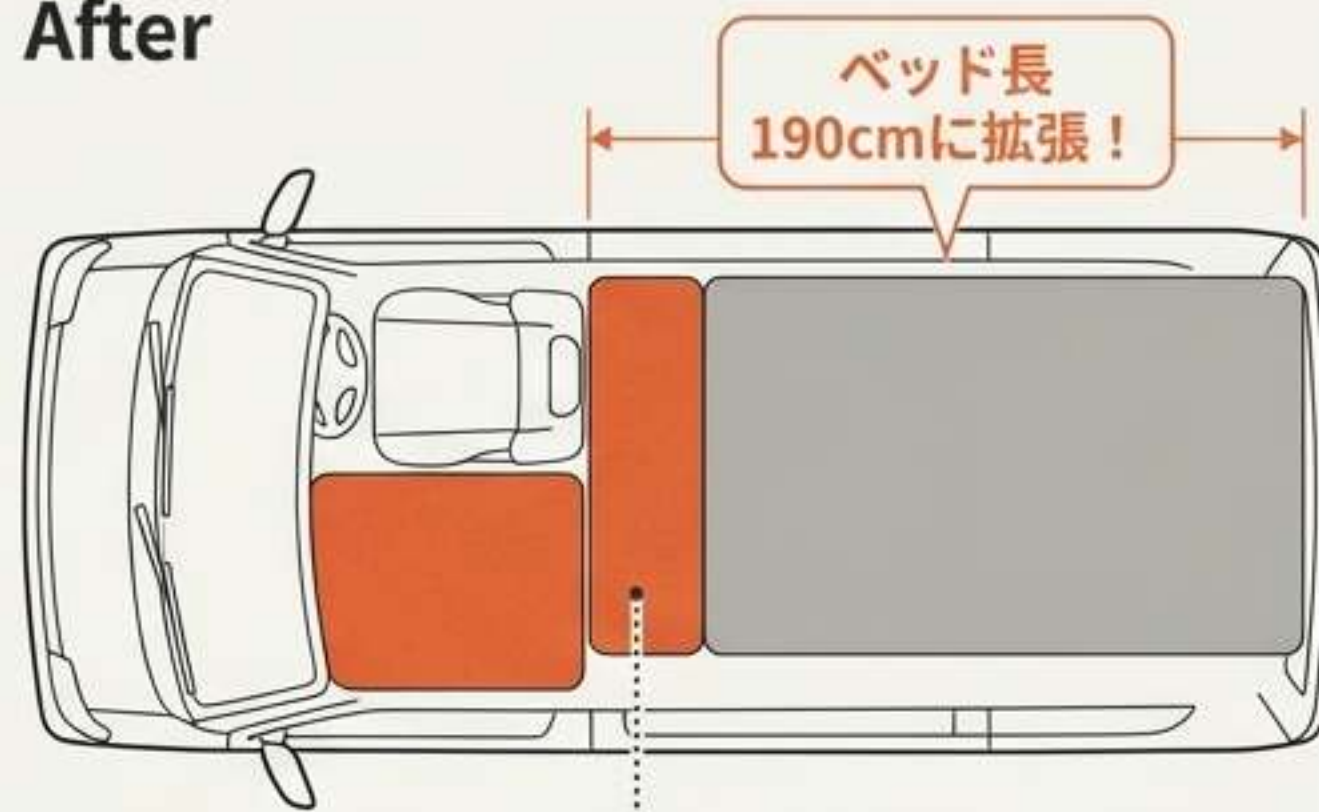
Before



身長170cm以上だと足元に余裕がなく、圧迫感がある。
助手席前方にデッドスペースが発生。

DIYによる
空間拡張

After



自作の補助マットでデッドスペースを有効活用。
この「+10cm」が、就寝時の快適性を決定的に変える。

DIYの価値

軽キャンパーのDIYとは、数センチ単位のスペースを削り出し、居住性を最大化させる「マイクロ・アーキテクチャ」そのものである。

「4ナンバー」か「8ナンバー」か？DIYにおける現実的な選択

4ナンバー（小型貨物）維持

家具やベッドは「積載物（荷物）」として扱う

- メリット（Pros）
 - 税金が安い。構造がシンプルで車検時に対応しやすい。
- デメリット（Cons）
 - 車検が1年毎（普通車の場合）。

8ナンバー（キャンピング車）登録

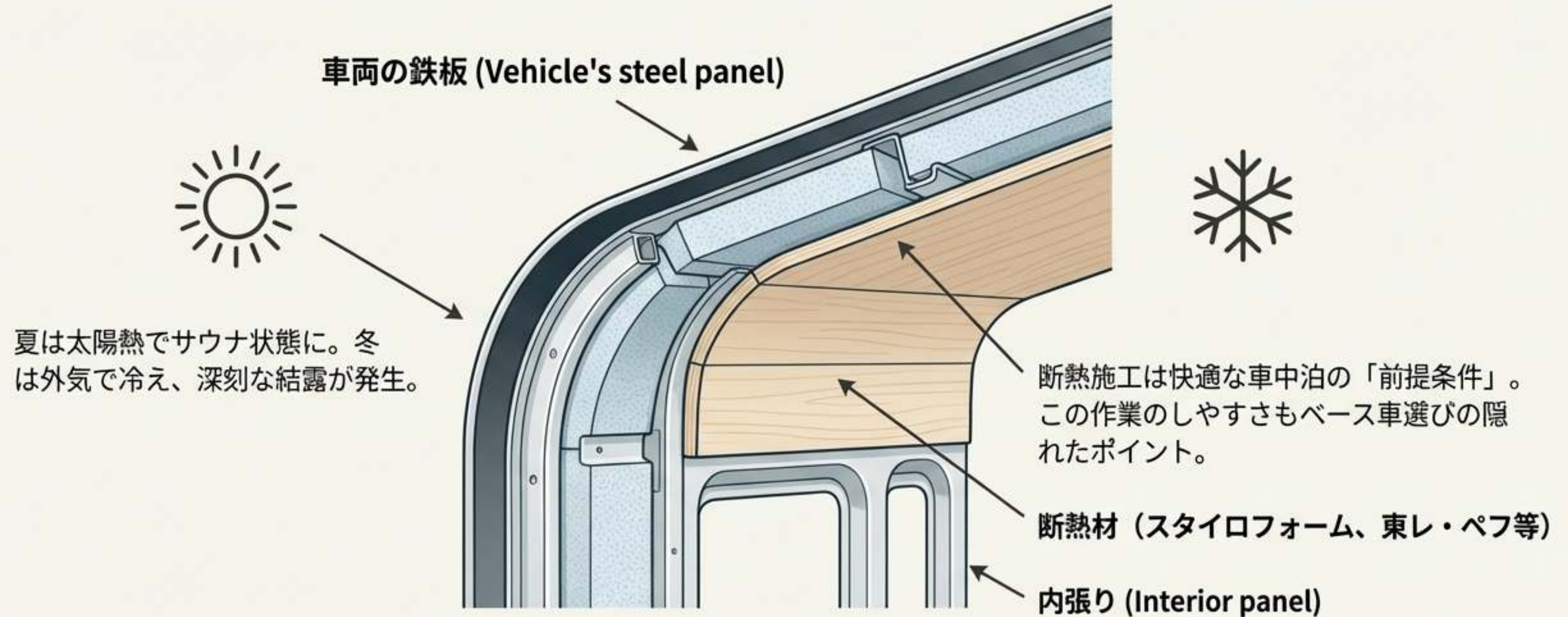
構造変更検査を受け、正式なキャンピングカーに

- メリット（Pros）
 - 車検が2年毎になる。
- デメリット（Cons）
 - 就寝設備や炊事設備の厳格な要件。DIYでの書類作成や検査の難易度が非常に高い。

推奨される選択

ほとんどのDIYユーザーにとっては、車検時に脱着可能な「積載物」として製作し、「4ナンバー」のまま運用するのが最も現実的で合理的な選択肢です。

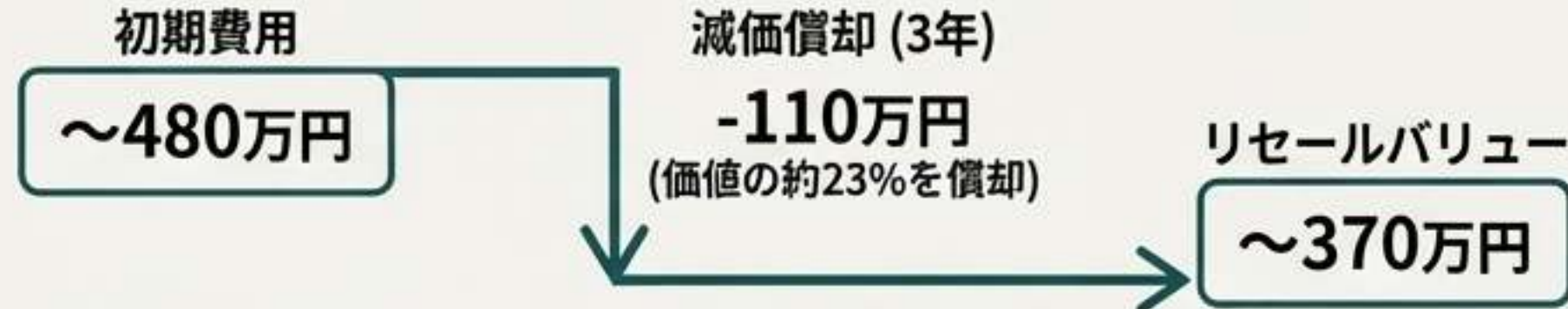
快適性の心臓部：断熱という最重要工程



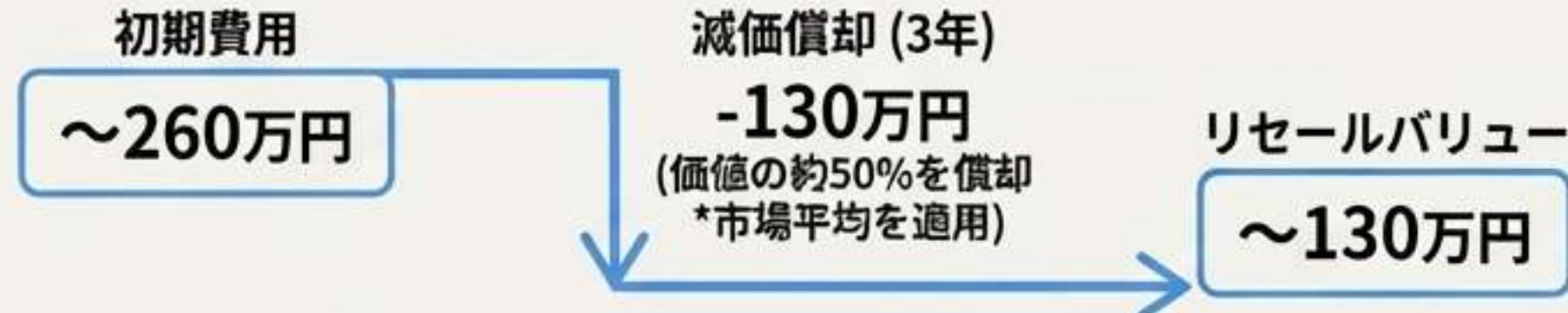
日本の高温多湿な気候では、断熱性能が車内での生活の質を完全に左右する。

総所有コストで見る、本当の経済性


ハイエース
(新車ディーゼル)




キャラバン
(高年式中古)



ディーゼル vs ガソリン:
初期費用差(約60万円)は、
燃費と高いリセールバ
リューで長距離派なら回
収可能。


軽バン (中古)
+ DIY



あなたにとっての「ベスト」は何か？4つの戦略的選択



最終チェックリスト：購入前に押さえるべき重要ポイント



ハイエースの盗難対策は必須投資。CANインベーター対策なども検討を。



軽バンは必ずターボモデルを選択。積載時の登坂能力に決定的な差が出る。



キャラバンを狙うならアラウンドビューモニター搭載車。価格差以上の価値がある。



全車共通：キャブオーバー車の夏場の座席下の熱と騒音。断熱・防音施工は必須。

理想の「動く秘密基地」作りへ

Disclaimer: 本レポートの価格情報や残価率は2024年-2025年時点の市場データに基づく推計値です。車両の改造は、道路運送車両法等を遵守し、自己責任で行ってください。

Sources: 参照データ：FlexNet, Carsensor, Goo-net, Carseven 他